

論文要旨

近年、中心市街地の活力低下等が問題となっている中で、町の活気を取り戻すというような事例も見られる。こうした成功事例に着目し、如何にしてその成功が導かれたのかについての一般的知見を得ることは、今後のまちづくりにおいて有益であると考えられる。その知見を得る方法として、これまでは定量的、非精神的な分析である自然科学的な手法が用いられてきたが、まちづくりに関わる人々の思いを理解するためには、「物語」を解釈するという解釈学的方法論を用いることが求められる。

そこで本研究では、まちづくりの発展を導く一般的了解を得ることを目的とし、その方法としてまちづくりの物語を描写し、それを解釈することとした。

物語描写を行うにあたり、まちづくりの成功事例として挙げられる埼玉県川越市を対象地として選定し、これまで行われてきた「町並み保全」や「交通まちづくり」について、関係者へのインタビューや会議傍聴等を行い、人々の語りを収集した。そして、それら個々人の物語を総合することを通じて、まちづくり全体の物語を構成し、その解釈によって川越まちづくりが成功に至った要因、あるいは現在検討が進められている交通問題の解決に向けた合意形成プロセスについて考察を行った。

その結果、町並み保全の物語描写によって、町衆・自治体行政官・専門家の存在が不可欠であり、それらの真剣さ・熱意から発する“化学反応”，さらには“機を見て敏なる”自発的行動，謙虚かつ毅然とした態度が、まちづくりを進展させる上で重要であることが示唆された。そして、交通まちづくりの物語描写によって、問題意識の共有化あるいは基本的な合意，行政の誠意，大学関係者による尽力が、合意形成に資する重要な要素となることが示唆された。